

インターネットの活用：近畿病院図書室 協議会および医学関連ホームページ

小田中 徹也

1. はじめに

インターネットの活用を身近に触れるために、HTMLで資料(<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/codanaca/seminar.html>)を作成し、当日は以下のホームページをインターネット上で実際に閲覧しながら、それぞれの内容や特徴を紹介した。

2. 近畿病院図書室協議会ホームページ

近畿病院図書室協議会ホームページ(<http://www.hosplib.org>)は、1996年10月末にWord-Wide Web(WWW)上に設けた。今年に入り一日約120件、月に約4,000件のアクセス件数を数え好評を得た。その内容は、協議会の活動紹介と図書館員への便利なリンク集の6部で構成されている。尚、当ホームページは個人のサーバスペースから、1997年秋に独自のドメインを取得し、レンタルサーバーに移転した。

- 1) What is a Hospital Library?: 病院図書館とは何か、として現在の病院図書室の現状とデジタル情報時代における課題を紹介。
- 2) Introduction to the Kinki Hospital Library Association: 近畿病院図書室協議会の組織、活動、会員、歴史、阪神大震災の報告などを紹介。

- 3) Contents of Journal "Hospital Libraries": 1995年以降の会誌「病院図書室」の目次を紹介。
- 4) Training Courses for Hospital Librarians: 1995年以降の研修会のテーマとプログラムを紹介。
- 5) Hot Links for Medical & Hospital Librarians: オンラインジャーナルを中心に医学・病院図書館員のために役立つと思われる関連サイト集。
- 6) MEDLINE Retrieval Search: 今年6月からFreeになったNLMの Grateful Medをはじめ病院図書室には最も興味深いFree MEDLINEの検索サイト集。

3. 医学医療関連サイト

次に、医学・医療関連ホームページのうち、代表的なサイトの特徴や、業務に役立つ情報リソースの例をたどった。

- 網羅的な入門用サイトの2例: カテゴリー別のYAHOO! - Health - Medicine (<http://www.yahoo.com/Health/Medicine/>)、アルファベティカル・リストのWWW Virtual Library-Biosciences - Medicine(<http://www.ohsu.edu/clinweb/wwwvl/all.html>)。前者は図書館の分類カード、後者はアルファベティカル・カードに例えられる。
- 医学図書館員と情報専門家が提供するサイト例: Health Web(<http://healthweb.org/index.html>)をあげ、図書館員のインターネッ

トでの情報への関わりを知る。

●学会の情報提供例：米国内科学会のACP Online: The Web Site for Internal Medicine (<http://www.acponline.org/index.html>)で、学会の充実した情報提供を見る。

●Free MEDLINE の文献検索：Dr Felix's Free MEDLINE Page (<http://www.docnet.org.uk/drfelix/>)を参照し、各検索サイトの内容や特色の一覧表でFree MEDLINEを一望。

また、次に示す医学および病院図書館のホームページを巡り、先進的な海外の図書館サービスを探ってみた。

●アメリカ国立医学図書館：National Library of Medicine [NLM] (<http://www.nlm.nih.gov/>)

●アメリカ東部の2例：イエール大学医学図書館 Harvey Cushing/John Hay Whitney Medical Library [Yale Medical Library] (<http://www.med.yale.edu/library/>)、マサチューセッツ総合病院図書館 Massachusetts General Hospital Treadwell Library(<http://www.mgh.harvard.edu/library/library.htm>)

●アメリカ西海岸の2例：カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校図書館 GALEN II [The UCSF Digital Library] (<http://www.library.ucsf.edu/>)、スタンフォード大学医学図書館 Lane Medical Library [Stanford University Medical Center] (<http://www-med.stanford.edu/lane/>)

●ヨーロッパの医学図書館：カロリンスカ研究所図書館 Library of the Karolinska Institute (<http://www.kib.ki.se/>)

●病院図書室の1例：ブリストル病院 Bristol Hospital - Health Science Library(<http://www.bristolhospital.org/library.html>)

これらの図書館のうち、ページのレイアウトを大胆に変更したNLMは、内容の豊かさ、最新のMEDLINE情報など日本の医学関係図書

館員にも避けて通れないサイトである。

各医学図書館では図書館の配置や開館時間、スタッフなどの紹介は当然として、蔵書の検索やオンラインジャーナルの一覧表、MEDLINEをはじめとする各種データベースの利用がWeb上で提供されている。更に、文献の申込や貸出し図書の予約、電子辞書類など参考資料の閲覧などもインタラクティブに提供されている。つまり、図書館へ足を運ばなくても多くの図書館サービスを自宅や各部門で受けることができる。この他興味深いのは、どの図書館でも医学関連の各種データベースの検索法や EndNoteの使い方、あるいはブラウザの使い方からHTMLの書き方までインターネットの基本などを教える教室が設けられている。また、図書館サービスと直接の関係はないが、各ホームページはそれぞれシンプルでスマートに構成されながらも、レイアウトに個性を出しているのが印象深い。

4. おわりに

最後に、アメリカの病院図書室の1例を見たが、規模やサービスはおおむね日本の病院図書室と同様の状況であるように感じられた。しかし、研究支援や地域へのサービスあるいはきめ細かな内容を盛り込んだホームページの公開など広報活動では学ぶ点が多くあった。私たち日本の病院図書室もインターネットでの情報入手はもとより、情報の発信についても今後は積極的に取り組む必要があると思われる。